

特245

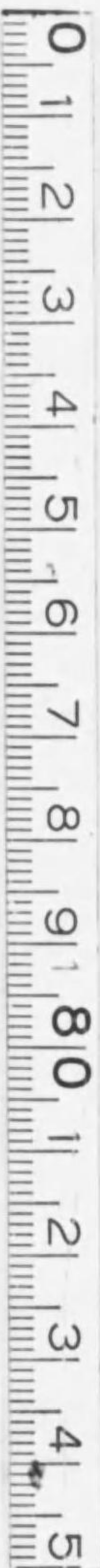
843

新民主主義先生數字

新民主主義

川田友之編

38
5



始



373

特 245
843

川田友之先生屬

湯之盤銘曰苟日新日日新又日新

康誥曰作新民詩曰周雖舊邦其

命維新 是故君子無所不用其極

戊寅四月

王克敏



支那事變勃發以來既に九ヶ月を経過したが局面は愈々長期戦に展開して今後の
收拾甚だ容易ならざるを思はしめるものがある。

然し乍ら一方に於て北支及中支に於ける臨時政府が澎湃たる民衆新興の氣運に乗
り攷々として建設の歩武を進めつゝあることは同慶の至りである。而してこの支
那更生運動の樞軸となり根柢となり指導精神となれるところのものは實に今や支
那全土を風靡しつゝある『新民主主義』であつて中華民國臨時政府は『新民主主義』を義務
制として國民の再教育に乗り出し共産主義を撲滅して眞の王道樂土建設に突進し
つゝあるとのことである。

先般川田友之君は本市委囑により新興支那を視察され多くの資料を齎された
が、『歸來行李匆匆』『新民主主義』を翻譯公刊して大いに啓蒙に資せられたことは感謝
の外はない。然るに本書の刊行は大いに時流に投じ刊行即日品切れとなつたと聞
いたが、今回熱心なる支那問題研究者の勸説を容れてこれを再刊せられることに
なつたのは當然とはいへ慶祝に堪へない。

一言所懐を述べて序に代へる

昭和十三年四月

東京市長

小橋三吉

は し が き

新民主主義は遜逸仙の三民主義に對して新興支那再建の爲に現はれた顯著なる支那民族のイデオロギーである。苟も支那を語らんとする日本の識者は其何たるかを知る必要がある。

北京に於て私が臨時政府の主班王克敏氏と會見したとき、氏は「私は遜逸仙先生から三民主義原稿に就て御相談に與つたが三民主義は實行が先で理論が後になつた爲めかく手違ひを生じたのである。今後は極力新民主主義を鼓吹して支那民衆を指導する方針である」と語つて居られたが、今や新民主主義は支那全土を風靡せんとして居るのである。

新民主主義の何たるかは此の小冊子に委曲を盡して居るから茲に贅言を用ひないが、要は堯舜以來發達せる東洋固有の精神文化を復興し、之れに廣く世界の智識を取入れて、孔子の所謂明德を天下に明かにし、遍せず黨せず、王道蕩々、民をして其堵に安んじ、文字通り理想的の王道樂土を建設せんとするにあり、蔣介石の焦土政策、戦亂破壊の後を受けて必ずや實現の可能性があると信ずる者であり、時宜に適したものであるから、諸君に一讀を御勧めする次第である。

此の小冊子は今回私が小橋東京市長の委囑によつて北支へ視察に行つて得た市民動員部關係の材料の一つであつて市長に提出せる報告書の一部であるが、まだ我國には翻譯物は勿論之に關する解説等も世に出て居ないので、茲に始めて之れを纏めた次第である。

昭和十三年三月

東京市役所にて

川のそと

識

第三版發行に際して

譯文『新民主主義』は小冊子ではあるが軍部、官界、政界、學界、實業界等へ配つたところ意外に評判よく再版も旬日を出でずして品切れとなつた。更に第三版を起して支那問題研究者に報ひたい。

共產山西の徹底肅清

五十歳迄の全省民に

新民教育を強制實施

新政府、注目思想對策

〔北京本社特電〕二日佐倉特派員發 北支、山西省にわたつての徹底的共產主義教育が未だに根強くはびこり中華民國臨時政府の新民主主義が十分に理解されず、治安工作上種々の妨害をなしてゐるので山西省臨時政府籌備委員會では今回省民全部に『新民主主義』による強制教育を行ふことに決定、同委員會文教長の名をもつて省内各縣政府に對し新民學校設立訓令を發した、新民主主義教育は中華民國臨時政府教育部の新教育方針の法制化をまつて同政府治下の地域全體に一律に行なはれることになつてゐるが、これに先立つて山西省はその特殊な情勢に鑑みて臨時章程によつて各地に新民學校を設立して省民の再教育を行はんとするもので新民學校

は土地の情勢によつて巡回と定著の二種類とし新民主主義による日常生活の常識技能を與へることを目的として八歳以上五十歳以下の省民は男女を問はず悉く義務的に入校させて教育を施す代りに全部無料として經費は一切設立者の負擔とする新民學校の中は少年科(八歳から十五歳まで)男青科(十六歳から廿五歳まで)女青科(十二歳から廿歳まで)成人科(男子廿五歳から五十歳まで)に分れ各科とも修身新民主主義常識を必須科目とし、ほかに少年科は將來小學校に改編する目的で思想教育を施し少年科と男青科には日本語を教へ、女青科には家事、衛生成人科には識字を課することになつてをる、山西省における共產主義の教育動員は一轉して『新民主主義』の教育動員となる譯で思想的な根柢そのものから改めさせようといふ努力は容易なものではないが、それだけにその結果は大いに注目されねばならぬ、共產主義山西省が新民主主義山西省に更生する基礎はこゝに築かれることとなるのである(昭和十三年四月三日東京日日新聞所載)

新民會長に王克敏氏

政治・民衆運動の一體

新北支建設の第二期

北支臨時政府治下の新民會では近くその機構の根本的改正を斷行し臨時政府の實質上の主席たる 行政委員長

王克敏氏が自ら新民會々長に就任し再建途上の新支那の最も基本的な民衆運動に自らリーダーシップを執ることとなつた、新民會の會長はその章程によつて新國家の元首自ら就任することとなつてゐて國家機構の首班者は同時に民衆運動の指導者として新支那建設に對して迫力ある統一を實現することになつてゐる

が現在は欠員となつてゐたしかし北支地方がなほ過渡期にあつて應急的にして果斷な政策が要求される現下の事態の下においては強力な指導建設が現實の切實な要求であるので新民會としては過去半歳の經驗を活してこゝに思ひ切つた改組を斷行することに決したものである、斯くて徐州會戰、山西第二次掃蕩戰の終結と共に治安確立、人心安定をスローガンとする建設第二期に入つた譯である。(昭和十三年八月十一日東京朝日新聞所載)

目的へ着々邁進

王克敏氏が愈新民會會長に就任し民衆の再組織指導者としての今後の活動が期待されるに至つたが、現副會長張燕卿氏も王克敏氏をしてその思ふ所に向つて自由に活躍せしめるため顧問の地位に退くものと見られるが中央指導部長繆斌、教化部長宋介、中央指導部次長早川三郎、監察部次長田中武雄、河北省指導部長高凌尉、山東省指導部長馬良、河南省指導部長蕭瑞臣氏等はその儘である、會自體の運動方針としては

- 一、青年訓練の擴充
- 二、農事試驗場普及
- 三、合作運動の強化

を三綱領として新民組織の擴充に對しては地區重點主義を以て臨み新民會運動の最近の著るしい特徴はそれが一片の口頭的な思想傾向運動に墮することなく農民生活の青年層に對して革新的な迫力を強く印象せしめてゐる、即ち現下各農村の青年訓練所における青年の合宿による共同生活的體驗は家庭の中に追ひやられてゐた青年心理を一變せしめるに至り新民運動は今後ますます目的達成に邁進することゝならう(昭和十三年八月十一日東京朝日新聞所載)

新民主主義

繆斌先生著

目次

一、新民主主義ノ理論	一
新民史觀	一
二、新民主主義ノ實行	五
甲、格物	五
乙、致知	五
丙、誠意	六
丁、正心	六
戊、修身	七
己、齊家	八
庚、親鄉	十二
辛、治國	十四

(一) 禮治主義	十五
(二) 德治主義	二〇
(三) 生産主義	二二
壬、平天下	二五
三、結 論	二七

一、新民主主義ノ理論

新民主主義ノ理論

新民主主義は吾人人類生存の自然法則である。生存は萬物の齊しく欲する所であるが時には生存出来ぬ場合がある、生存出来ないのは抵抗力が無いからである天地は一の動力であり人生も亦動力である、凡そ動力があれば必ず反動力がある、此を抵抗と謂ふのであるが之れ亦自然の法則である。抵抗力のある者は生存し抵抗力のない者は必ず滅亡する、生物は凡て生れながらにして抵抗力を具へざる者はないが然し優劣、善惡の區別はある。優者、善者は道に適ひ自然の法則に順應するものである。劣者、惡者は道に適はず自然の法則に違反するものである。人間は萬物の靈長として其の抵抗力は最大であるがやはり優劣、善惡の差別はある。優者善者は生存し、劣者惡者は滅亡する、何故ならば優者善者は能く道に適ひ自然に順應し大なる抵抗力を具備して居るが劣者惡者は道に適はず自然に違反し小なる抵抗力しか具備しないからである。人類の歴史は一の動力と反動力とが生じて相尅する所の歴史である、動力と反動力とが平衡を保つ場合は道に適合し自然の法則に順應して平和が得られるが一旦動力と反動力とが其均衡を失ふ場合は奔流の決するが如く戦争が起るのである。故に戦争は正に平かならざるものをして平かならしめ、和せざるものをして和せ

しめんとするものであつて平かならざるものを平かにし、和せざるものを和せしむることか出来ないならば其れは眞正なる和平の説ではない、且つ又物の齊しくないのは物の自然であり天道の運行は適者生存にして春は生れ秋は殺すのである。優劣善惡の別は之より生ずるのであつて此れ即ち自然の法則なのである。天と萬物の關係は丁度園藝家が草木を整へる様なものである、茂り過ぎると之を切つて平にし、屈曲すると之を除去する。斯くて其の栽培する所のものは全部佳葩珍菓であり其の種は日々改良される、惡材を捨て、良材を育て、劣種を除いて優種を養ふのである、天と人との關係も亦同様である、善人を保護し惡人を除き適者を生かし不適者を殺すのである、故に人類は必ず善に向ひて其の生存を圖り惡を除いて善を保護しなければならぬ、天道は公平であつて善のみを助けるのである、此に依て見れば人類の競争は畢竟善と惡との競争であり適、不適の競争である。

人類は善惡の消長に由て進歩する。故に人類進歩の歴史は一直線の進歩をなすのでなくて循環式に前進して已まざる進歩をなすのである、即ち天道に陰陽あり、陰陽消長して晝夜春夏秋冬の別を生じ一週して再び始まる如くに毎日進んで已まない、天道は一刻も動かぬ時はなく、一刻も休息しない、而も動靜の二態を有つて居る、陽は動であり、陰は靜である、晝は動であり夜は靜である、春夏は動であり秋冬は靜である、然し動中靜あり、靜中動あり、動極まつて靜となり、靜極

つて動となり、一動一靜變化が生じて日々進歩して已まないものである、此れ天地の大道であつて人類の進歩、善惡の消長も亦斯くの如きものである、且又所謂善惡なるものは其の表面の結果を以て言ふに過ぎないのであつて善の中にも亦惡がない譯ではなく、惡の中にも亦善がない譯ではないのである。

故に人類歴史盛衰の場合盛になる時も全部が君子ではなく小人も亦其中に交つて居るのであつて只君子が多く小人が少いと云ふに過ぎず惡とするに足らぬと言ふだけである、衰へたる時も全部が小人でなく君子も亦其中に交つて居るのであつて只小人が多く君子が少いと云ふに過ぎず善とするに足らぬと言ふだけである、だから世の盛衰の變化と云ふものは畢竟君子と小人の消長、善と惡の消長なのである。人類歴史の進歩は常に善惡の消長であつて其表面を視れば固より循環の反復であるが然し循環して舊に復するのではない、人類は善惡消長の中に在りて善を積み惡を除き善を積んで已まざれば進歩も亦止まる所がないのである、車輪の前進する如く旋轉するけれども元の轍を廻るのではない、天地の道には晝夜あり春夏秋冬の反復があるが一刻も前進せざる時はない天地間の萬物も亦一刻も變化を生ぜざる時はない、即ち大地の靜も精密なる科學の眼を以つて觀察すれば其の地質は常に變化して居る、人類萬物の變化も亦同様である試に問ふ、昔の人と現在の人と容貌形体に於て絶對に同じであらうか、此のことを以て人類の進歩を證明することが出来る、吾人の新民主義は東方固有の文化の復興を主張するものであ

るが然も西洋文化の長所を採用しないのではない、萬事古に復するときは後聖は先聖の笑ふ所となり、萬事西洋を模倣するときは東洋は西洋に欺かれることになる、東洋には東洋獨特の美德がある且世運は變化し東西兩洋の文化は百餘年の消長を経て將に東洋文化の黎明が來らんとして居る、東洋の人類は東洋固有の文化を以て善を擇んで固執し西洋文化の衰頹を矯正しなければならぬ。苟も日に新に、日に日に新に又日に新なり」の革新精神を本として明德を天下に明かにせねばならぬ人類の生存をして天道に適合せしめ更に至善の趣旨に満足せしめねばならぬ、又人類の生存をして理想に適合せしめねばならぬ所謂明德を天下に明かにすると云ふことは天地人三才の道を明にすることであつて之を一貫することが即ち王道である、王と云ふ字の意義は上の一畫は天であり下の一畫は地であり、中の一畫は人であつて一直畫を以て天地人三才を貫通して居ることである、人は天地の氣を受けて生じたるものであるから天地と渾然一体をなすものである、王の字の中間の一直畫は丁度人体に血管がある様なるものである。新民主義は王道を實行することを目的とし實行の方法としては格物、致知、誠意、正心、修身、齊家、親郷、治國、平天下の九項目がある。

二、新民主義ノ實行

甲、格物

格物、致知、誠意、正心、修身、齊家、親郷、治國、平天下の九項は新民主義が王道を實行するの順序である、此の九項目の順序は簡單に言ふと克己、復禮である、格物、致知、誠意、正心、修身の五項目は之を克己と謂べく、齊家、親郷、治國、平天下の四項目は之を復禮と謂ふことが出来る、格物とは私を去ることであり物とは物欲の私であつて王陽明の所謂心中の賊である、格とは格闘の意味であつて物欲の私と格闘することを格物と謂ふのである、人は私欲を去れば人心と天心とが合一して道心が成就するのである、孔子の所謂吾が道は一以て之を貫く、陸象山の所謂「宇宙は即ち吾が心なり吾が心即ち宇宙なり」と言ふのは天心と人心の合一を示せるものであつて王道の發端である。

乙、致知

私欲を去れば天心と人心とは一貫する、斯くて人の知識は良知の域に達し得る、良知とは知識の體であつて、知識は良知の用である、良知を致すと云ふことは知識を善用することである、人の知識は應用の際善ともなり惡ともなる、孔子時代の少正卯、近世獨逸に於けるマルクスの如きは其の得る所の知識を悪用せる者である、知識を悪用しない爲には先づ良知を致すことが必要である。

丙、誠意

吾人は既に公平無私の心を抱き、又得る所の知識をば良知に基き悉く善用することゝしたなら更に志を立て力行して自ら欺くことの無い様にせねばならぬ、此が所謂誠意である、誠意があれば至誠息むこと無い様にせねばならぬ、そうすれば日に進歩して己まず其の成功は愈々大となるのである故に中庸に至誠神の如しと云ふ言があり、又唯天下の至誠能く其の性を盡すと爲すと云ふことがある、能く其の性を盡すとは能く人の性を盡すことであり能く人の性を盡せば能く物の性を盡すことが出来る、能く物の性を盡せば天地の化育を助けることが出来る、天地の化育を助けることが出来れば天地に參與することが出来るのである、努力して己まざれば人類萬物一切の原理を深く知り人類萬物が行ふ所の道をして天地間の生存の道に合せしむることが出来る、此が所謂天地の化育を助くることであり又王道の功用である。

丁、正心

人既に至誠息むことなきの精神あるも其の精神を失ひて邪惡に陥るの恐れがある故に之に加ふるに更に正心の工夫が必要となる、正心とは善を擇んで固執することである、其心とは形体の心ではなくて心の中又心有りと云ふ其の心を指すものである、即康節は心は太極であると言つて居る、太極とは易の道である、易は陰陽の變化である、周濂溪曰く「太極動いて陽を生じ、靜まりて陰を生ず、動く時は即ち陽の太極、靜まる時は陰の太極である」と。一動一靜に依て萬物が生ずる。此に由て心と云ふものは常に動いて居るものだと云ふことを知るべきである、此の心が邪惡に陥らざることを望むのは正心の功用である、孟子に「推是心」「求放心」「盡心」「存心」等の言あるは皆此れ正心の事柄である。

戊、修身

心は既に正しいが更に之に規則を加ふることを修身と謂ふ、修身とは其の形体を修むることではない形体の外に又形体がある、之を人格と謂ふ、修身とは人格を修養することである、禮記に曰く。「言に物有り、行に恒あり」と。此れ人格の始である、人は孤立して生活することは出来ない、即ち個人は社會の中に生活するのである、言行舉止は自ら守るべき規則がある、之を越脱してはならないのである。

現世に於ては好んで自由の説をなすものがあつて一切皆自由たるべしと言ひ個人主義を作り上げる、斯くて之を小にしては極端に放縱邪侈に陥り、之を大にしては私欲を逞うし資本主義の種々なる害毒を醸成した、更に資本主義の反動から階級闘争の種々なる弊害を作つた、此れ皆修身を知らざるための過失である、能く身を修める者は能く自ら治める、能く自ら治める者は己を推して他人に及ぼすこ

とが出来る。

現代の資本家は個人の自由主義に依り慾望飽くことなく、富をなすも仁を成さずして労働者を壓迫して居る、此れ其の人格を守ることの出来ぬ過誤である、若し能く其の人格を守り其の天爵を修め、仁義忠信、善を樂んで倦むことなければ正に民衆の生佛の如きものである。

階級闘争の學説は根據なくして發生した、現今の労働者は只労働時間を減少し、労働賃銀を増加し資本家を倒すことを事として居る、此れ亦其の人格を守ることの出来ぬものであつて他人を責めて自己を責めざるの過誤に陥つて居る、人には本來賢愚の差別あるを以て富貴貧賤の別も亦免れ得ざる所である、愚を賢となすの途を講ぜずして單に貧者は富を要求し、賤者は高貴を要求するは全く理由の無いことである、故に労働者は自ら其の賢愚を反省して其の妄想を去り、富者は儉約を旨とし貴者は徳を修めたることを知り其の手本に倣つて努力するならば富貴は固より何人にも得られるものである。

此くの如く階級闘争の學説は根據なくして起つたものであるが天下治亂の繋る所は固より一學説の浸染に在らずして實に各人格を以て自ら治め克己を以て身を修むること能はざるに在るのである。

己、齊 家

以上述ぶる所の格物、致知、誠意、正心、修身の五項目は凡て克己徳を修むるの工夫に外ならない、克己修徳は個人の事柄である、今個人の克己修徳より進んで齊家、親郷、治國、平天下に入るのであるが此は即ち禮に返る事柄である、孔子曰く「夫れ禮は先王以て天の道を承け以て人の情を治む、故に之を失ふ者は死し、之を得る者は生く」と。故に禮は天道に基いて定つた所の人生の法則である、人生の單位は家である、家は父子、兄弟、夫婦相依つて生活することにより成れるものである、父子、兄弟、夫婦各其の分がある之を齊と云ふ。

人は生れると、父母に頼るのでなければ生存出来ない、老人になると子女に頼らなければ生存出来ない、故に孝の字は老より省いて子を従へたものであつて子は老より承けたものである、天下の父母にして其の子を愛せざる者はない、之を養育するのも愛であり之を鞭打ち、訓誡するのも亦愛である、之を愛すると云ふことは其の生存を欲することである、孝の父母に對する關係は愛である、父母を愛するは亦其の生存を欲するからである、父母と子女の關係から兄弟夫婦に至るまで互に親愛する所以は皆生存の爲である、兄は弟を助け、弟は兄を敬ひ、男は外を主とし、女は内を主として各其の分を守り相互に親愛するは生存の道である、一家親愛すれば一家榮え一國親愛すれば一國榮え、天下親愛すれば天下皆榮えるのである。齊家の道は我が東洋家族主義の法則である、西洋思想には齊家の道はない、従て家族主義もない、只功利思想の個人主義があるだけである、この個人

主義に依り父子、兄弟も別居し經濟事業に於ても各獨立して家族に共存共榮の義務がない、父母老ゆるも子女は必ずしも奉養しない、甚だしきに至つては子女が富貴の地位に在り父母は其の賤役に從事する如きものもある、一飯、一宿の費用も必ずきちんと勘定する、西洋の老父母が孤獨窮居し、寂莫たる生活をなす状態は誠に人生最大の不幸である。

西洋の個人主義から發展して男女平等の説が生じた、この平等の説に依り男女の權利義務は萬事平等なりと誤解せしむるに至つた、此れ實に天理と人性に違反するものである、天は男と女を生み以て人類を造つた男女は各其性を異にし各別の徳を有つて居る男性は陽、女性は陰、男子の徳は剛、女子の徳は柔である、所謂「陰陽合徳」とか「剛柔相推して變化を生ず」とか云ふことは人生不易の法則である、故に男には男の陽剛の徳があり女には女の陰柔の徳がある、男は外を主とし女は内を主とし各天賦の性を發揮することが眞正の平等である、若し強ひて女子に男子の仕事と與へたならば女子は其の任に勝えぬばかりでなく天理にも違反する、譬へば政治の如きは男子の仕事である、女子をして政治に干渉せしむることは我が東洋道德の許さざる所である。

我國の歴史を通觀するに婦人が政治を行ふ時は常に亂れて居る、現在我國は不幸にして宋氏の三姉妹が政治に干渉して居るが國家をして一片の焦土と化して了ふことは明かである。

現代の西洋思想は女子の参政を要求して居る、甚しきは女子の兵役に服することを要望して居る、此のことは男子をして育兒や家政を掌理せしめ、料理、裁縫、洗濯等を行はしむるのと同様で不可能のことである、男子には男子の仕事があり女子には女子の仕事がある、茲に始めて平等と稱することが出来る、且つ女子の家政は實に天下の政治に關係を有つて居る、蓋し家齊はずして國が自ら治まると云ふことはあり得ないからである、故に女子は政治に參與しなくとも政教風化に關係する所は甚だ大である。

齊家の道は先づ以て人倫を正しくせねばならぬ、それは男女の別を嚴格にすることが根本である、孝弟は家族主義の根本である、孝は縦の家族主義であり、弟は横の家族主義である、父母に孝に、兄弟に弟なれば我國の家族が數千年を経るも宗統歴然とし、四億の民衆あるも姓氏は數百に過ぎざる所以である。孝弟なるものは生きている時に於ては親は之に安心し死者を祭る時に於ては死者は之を享けるのである、一家には一家の祭祀があり、一族には一族の祭祀があり、一國には一國の祭祀があり、天下には天下の祭祀がある、天を祭ると云ふことは即ち天下の祭祀である、天地は萬物の父母である、故に天下を治むるの道は先づ天地が父也であつて四海の内皆兄弟であることを知らねばならぬ、國を治むるの道は先づ國族祖先が父母であつて國人は皆同胞であることを知らねばならぬ、家を治むるの道は先づ族祖が父母であつて一族の人は皆親兄弟であることを知らねばならぬ

孝弟が一族に行はれると一族治まり、一國に行はれると一國治まり、天下に行はれると天下治まるのである。故に孝弟を以て天下を治むる者は第一に祭祀を重んずるのであつて所謂祭政一致となすの意味である。支那の家族主義は數千年を経たるも没落せず、且つ今後數千年を経るも亦没落せざるものである。現在支那は四億の民衆を擁するも姓氏は僅か數百に過ぎず一の姓氏毎に皆系圖がある、そして一族の盛衰の如きは全部検査することが出来る、誠に孝弟の道に基いて家族の誼を教くせるものであつて四億の民衆をして數百の氏族團體に團結せしめ、更に此の數百の氏族團體を團結せしめて一の國族團體を成立せしめ更に各國族團體から天下萬邦を成立せしめたのである、家より、國、天下に至る迄孝弟の道を實踐せざるはない即ち其の教は嚴肅でなくても成立し、政治は嚴格でなくても治まるのである、故に孝弟なるものは家族の親愛と至誠である、家族の親愛、至誠より進んで國族の親愛、至誠となり、更に國族の親愛至誠より、進んで天下の親愛、至誠となれば萬邦協和し王道の天下は成立するに至る。

庚、親 郷

支那四億民衆は僅かに數百の氏族團體となりて廣大なる地域に分布して居る、今孝弟の道を行はうとするに先づ近きより遠きに及ばすのでなければ事は成就しない、故に齊家の後は必ず親郷の順序を経過しなければならぬ、斯くして始めて治國の域に達し得るのである、親郷の項目は大學の中には漏れて記載されてないが

老子の道德經の中には明かに記述されて居る、支那の氏族團體は大き過ぎるので四つの郷に分居して居る、だから郷は實に父兄宗族の所在地であり家を除外すれば郷は最も親しいものなのである、親郷とは即ち地方自治の謂である、家を治むるには齊を以てし人倫を正しくすることを以てした、郷を治むるは亦親愛の道を郷に行ふに過ぎない、周制では六德、六行、六藝を以て親郷即ち地方自治の教とした、六德とは智仁聖義忠和を言ひ、六行とは孝友睦姻任恤を言ひ、六藝とは禮樂射御書數を言ふ、六德は修身の事柄、六行は合族の道、六藝は自治の方便である、郷里の間に此の三教を行へば民を教化し良俗を成すことが出来、必ずしも官治を要せず自から治むることが出来るのである。

然るに現今の所謂地方自治は地方の官治であり、警察の政治である、地方自治の人々は政府を補助し、政令を行ふに過ぎない、甚しきに至つては警察の任務を擔當するだけである、之は地方自治の本義ではない、地方自治の本義は民を教化し良俗を成すに在る、故に重點は德行道藝の教に在るのである、然るに現在の地方自治は人民の組織を嚴密に注意し、人民の行動を監督し警戒はしても未だ民を教化することがない、其の弊害は甚しくなつて人民は重い壓迫を受けて自由無く、政府と人民は漸次壓迫階級と被壓迫階級の區別を形成するに至つた、そして互に相對立し仇敵視し遂に人民の怨嗟は沸騰して地方は亂るゝに至つた。東洋の政治思想は政治家が民を治るに當り政教合一ならしめ漸を逐つて社會の善良なる風俗

を養ひ人民をして各其の分を守り各其業に安んぜしむるに在る、「日出で、作り、日入りて息ひ、帝力我に於て何かあらんや」の語は即ち自治完全の域に達して官治の必要なきを表はしたのである。

辛、治國

地方の自治が能く行はれれば國家も亦治まらぬことは決してない、國を治むるの道は固より政教の合一を必要とするのであるが然し善のみを以てしては政治は不充分であつて必ず人民の生活を安定せしむる要がある、制度に於て恒産あり恒業を持たしめれば人民は恒心を有し共に善をなすことを樂むに至る、所謂倉庫充實して禮節を知るとはこのことである。故に治國の道は政教の外に特に民を養ふの道を重視しなければならぬ。

政教養の三者を合して一とならしめたならば人民は安居樂業して亂れないのである、書經大禹謨の中に「徳善惟政、政在養民、水火金土穀惟修、正徳利用厚生惟和」と言つて居るのは即ち政教養合一の意義である。

抑々政は正であり、之を正しくすることは禮を以てするのである、教は導くことである、之を導くには徳を以てするのである、養は生である、之を生かすことは産を以てするのである、之を齊くするに禮を以てすることは之を禮治主義と謂ひ之を導くに徳を以てすることは、之を徳治主義と謂ひ之を生かすに産を以てすることは之を生産主義と謂ふ、新民主主義の治國の道は即ち此の三者を基本とするのである。

(一) 禮治主義

抑々禮は法を以て用ひるものである、法は時と共に回轉すれば治まり、治は時世と共に適當であれば功あり、時世に適合せることを行ふのは水に従つて舟を下す如きもので當然のことである、此れ即ち禮に安んずるの謂なり。故に禮と云ふものは非常に困難のことではない。

能く人情を推量して定めて法則とするだけである。人情を觀察するためには必ず博く衆論を擇び取りたる上で決定しなければならぬ、蓋し法は衆人の行ふ所であつて一人の事ではない、博く衆論を擇び取るの方法は現今世に行はれて居るものに二つある、歐米の代議制度が其の一、歐米の黨治國が其の二である、歐米の代議政治は固より民意を暢達し専制を防止せんと欲するに在る、然し其の弊害は議會の代表を選挙する制度に存在する、即ち代議制度に依て政黨が発生し、政黨の選挙争が発生した、政黨には國家の給與がないから必ず黨費と選挙費用の出所がなければならぬ。

斯くして資本家の操縦政治が発生した、資本家操縦下の代議政治は往々にして利に趨りて義を忘れる、資本家は政治勢力の擁護下に其の勢力は愈々増大して、遂に資本主義政治を形成するに至つた。

而して眞正の民意は閉塞されて了つた。此れ其の弊害の一である。代議政治の原則は多數決である、事を論ずる際は是非を辨へず只仲間を集め甚しきは金錢を以て買収する等手段を擇ばず多數を取得して是なるものも非とし、非なるものも是たらしめるのである。斯くして政治は暗黒となる。此れ其の弊害の二である、此の二つの弊害の及ばず影響の最大なるものは道德を衰亡せしめ社會を陥れることである、故に歐米資本主義政治代議制度は眞正に民意を代表することが出来ないのである。

現在は歐米の代議制度以外に一黨專制の制度がある。蘇聯の共產黨專制の如き、伊太利ファシスト黨專制の如き、獨逸國家社會黨專制の如き、更に現在中國の國民黨專制の如き之れである。凡そ此等黨の主義は各同一ではないが黨を以て國を治むる政策は同一である。

黨を以て國を治むることを主張する所以は一黨の主義を有し之を以て革命の目標とするに因るのである。其の革命に當り政權を取得したる後は政權を鞏固ならしむる爲主義を普及し、反革命者の意見を鎮壓する爲一黨をして專をせしめざるを得ないのである、一黨專制は指導者に其の人を得れば迅速に功を奏することが出来る、例へば獨、伊の如く其の國運は隆々として日に盛んになつて居る、然し蘇聯の共產黨及中國の國民黨の採用して居る黨制は皆獨裁明文の規定がなく、スターリンや蔣介石は陰謀を以て黨權政權を奪つたものであつて、公明正大の態度を

採らないのである、只陰險奸詐を以て同志から奪取したのである、此れ共產黨中連年黨の肅清をなし、あらゆる共產元老及反對分子を大量誅殺する所以であつて現に蘇聯の黨中重要な地位に在る者は各々身邊危険ならざるはない、スターリンの專制は專制帝王たる桀紂より甚しきものがある。蔣介石の如きは天下を私にする心を以て革命の假面を被り最初は容共政策を採り、次いで共產黨の肅清を行ひ始は武漢を討伐し次いで寧漢と合作し、始は閻錫山や馮玉章と覇を争ひ、後には閻、馮と共同し、始は共產軍を剿滅し、今は之と連合して居る、口には日本との親善を稱へ暗に日本に反抗して居る、朝秦暮楚、變節極まりなし、此れ自己の目的の爲に人民を犠牲にして顧みざるものにして十餘年蔣介石が政權を掌握して以來連年の戰爭で人民は生色がない、現在は更に荒唐無稽なる焦土政策を實行して四億の同胞の一半を殺さうとして居る、此の種の抗戰は國を禍し、民を苦めること實に張獻忠や李白成と異なる所が無い。

而して蔣介石の一切の罪惡は國民黨と云ふ黨を以て國を治むることに名を借りつゝ自己の計畫に便せしめざるはないと云ふことである、哀れなる我が同胞は何うして之に堪へ得られやう。

一黨が國を治むることは只奸雄スターリンや蔣介石を利するだけである。スターリンの獨裁は蘇聯の人民を盡く奴隸として息をつく餘地もなからしめて居る、蔣介石の獨裁は中國人民の生靈を塗炭の苦に陥し全國の財産を焦土となして居る、

故に黨を以て國を治むる獨裁は首領たる人物を設けることが出來ず其の罪惡は暴虐なる專制帝王よりも甚しきものがある。

資本主義の代議政治及一黨專制の獨裁政治の弊害は前述の如くである、吾人の新民主主義は國を治むる道に於て第一に禮治主義を唱へる、抑々「禮の用は和を貴しとす」と云ふことは人生の道理であつて互助に非ざれば生存することが出來ない、互助とは和である、禮の作用は和を致すの道である、和を致すの道は分に在る、人類の社會は多數の民衆に分がなければ亂れる、故に昔の聖人は民に人倫を教へた即ち父子をして親あらしめ、君臣をして義あらしめ夫婦をして別あらしめ、長幼をして序あらしめ、朋友をして信あらしめた五者は皆人の大倫に屬するから五倫と稱する、又人生には由るべき常道がある、之を五常と云ふ、五倫は人類の名分であつて壓迫と被壓迫の階級の意味があるのではない、又平等と不平等との差別も無い、凡そ文明の人類は必ず五種の人たるの分別がある、更に此の五種の異つた資格の人に五種の道德の教を授け各其の分を守らしめる此が禮治の根本意義である、此の五倫の教に依り修身、齊家、親郷の順序で治國に達するのである。家には家長があり一家の人皆其の命を聽く、郷には郷長があり一郷の人は皆其の命を聽く、古の制度で、五家を比となし五比を閭となし、四閭を族となし、五族を黨となし、五黨を州となし、五州を郷となした、昔は三公の尊き者を以て郷老とした、三公とは、太師、太傅、太保である、六郷の貴き者を以て郷大夫とした、

六郷とは大宰、大司徒、大宗伯、大司馬、大司寇、大司空である、昔時地方自治を重要視したことは之を以て知るべきである、一郷の大きさは現在の制度で言へば殆ど一省に等しい、故に省を以て自治の單位とすべきである、省以下は分つて、縣、區、村長とする、昔は郷舉里選の制度があつた之は現在の選舉制度である、即ち家長を本位として家長が村長を選び、村長は區長を選び、區長は縣長を選び、更に縣長は省長を選ぶのである、各省の民は此等自治各長の德行道藝を考慮して以て其の賢能を定める、然る後に人民の直接選舉に由て各省長中一人の國長を選ぶのである。斯の如く賢者を選び、有能者を任用することは總て民が基礎となる人民が選舉した人が人民の長となり、人民を治めるのである入りては官府に於て行政を掌るのも此の人であり、出でては區村に於て其の長となるのも此の人である、利を興し弊害を除き萬事成功するはすべて此の德行道藝の人なる故である。此の種の選舉制度は家長を代表者とするもので此は國が家を單位とすることを明にせんものである。

家は親に親しむの道を以て整へ、國は又親に親しむの道を以て治まるのであつて根は同一である。凡そ國家を治むるには必ず民情を洞察し民の好む所を好み、民の惡む所を惡む底に達しなければならぬ。現在の國長、省長、縣長は其の本を尋ねれば皆家長より出たるものである、だか

ら高位者と雖も良く下情に通達して居る、且つ其の徳行道藝は既に人民の成績考査を受けて居るのであるから官吏たるものは非を爲し得ないのである。斯くの如き實情であるから、代議制度操縦の弊もなく、一黨專制、獨裁の弊もないのである。此れ吾人が禮治主義を主張する所以である。

(二) 徳治主義

官は民より出でて、而も必ず民を教化する、此れ徳治主義である、即ち官は民の君となり、師となるのである、民の爲に官となり民の爲に師となることは政教合一の道である。

政治家は高く民の上に居つて其の一言一動はすべて天下人民の手本となる、政治家が父母に孝なれば、即ち天下の民も孝ならざるはなく、政治家が能く長老を尊敬すれば天下の民も皆長老を尊敬する、政治家が能く孤獨の者を養ひ、貧乏の者を救済すれば天下の民は一人も背く者はないのである、故に政治家は先づ道徳を養ふことが肝要である。

中國の最近數十年來に於ける政治の腐敗及國力の衰弱は其の罪人民に在らずして爲政者が不徳にして己を修め人を治むることが出来ない結果である。

昔のことは論外として現在の國民黨を見るに其の領袖たる人物の背徳行爲は人の耳目に明かな所である、即ち蔣介石一人を論ずれば糟糠の妻及二人の妾を遺棄し

て宋美齡を娶つたことは齊家の道を失へるものである。

父は國民黨に屬し子は共產黨に屬す、國共未だ聯合せざる時に於て父子は互に仇敵となつた、これ人倫の道を失へるものである。宋氏の一族を容れて國の富を寄せ集めても人民の生活は安定しない、更に荒唐無稽なる宋氏の三姉妹が暗に國政を變理し、牝鶏がトキを作るの愚をなして國民を滅亡の域に導いたことである。

新民主主義は徳治を主張し以て政治を改革し根本より整理する方針である、今後官職に就く者に對しては必ず先づ其の徳行を調査し、且つ齊家の良否を調査することとする斯くて始めて國を治むることが出来る、蓋し爲政者の有無は實に國家の興亡に影響するに足るものであつて今吾人は従前の苦痛を追想し特にこの事に注意しなければならぬのである。

(三) 生産主義

禮治と徳治に依つて政教は合一する、人民が治まつたなら次には生を養ふの道を重んぜねばならぬ、此れ新民主主義が生産主義を主張する所以である、西洋の經濟學説は大部分分配の改良に偏して生産の改良を研究せず只分配の均等でない結果のみを見て生産の均等でない所の原因を考へない。

現代の國家社會主義や共產黨の集中生産、集中分配等は皆資本家が生産、分配を壟斷することに反對して起つたものである、然し國家社會主義は重要なる生産事

業を國營とするものであるが、其の弊害は往々にして官僚主義を發生せしめ、國營事業は之れが爲めに遅々として進まざることになる。蘇聯の集中生産は生活必需品に至る迄凡て國營で製品の劣悪能率の低下は世界中公認の事實である。而して其の集中分配は麵包、靴等微細な物までに及ぶ、斯くて麵包には麵包の官吏があり、靴には靴の官吏があり、人間の必要とする所の物は總て官吏の制限を受けて一箇の麵包を食し、一足の靴を穿くのである、甚しきに至りては終日首を長くして立つて待つて居ても手に入れることが出来ないと言ふが如きは人民の生活の自由を剝奪すると言ふべきである。昔反對した所の資本家の生産壟斷は今や蘇聯の集中生産に移つた、其の壟斷は資本家の百倍よりも甚しきものがある、吾人の新民主主義は資本家の生産と分配の壟斷を除去し又社會主義の國家集中に依る生産及分配の壟斷を除去することを欲して居る。故に吾人が注意する所は分配が均等ならざる結果に在るのでなくて、生産の均等ならざる原因に在るのである。機械工業が發達して以來資本家は利己心から大量生産及大量分配の學說を唱へた。共產黨は其の説に依て蘇聯今日の人民生活を壟斷するの弊害を作つたのである。抑々人間は機械を使用するものである。現在世界の經濟學說、マルクスの學說は皆人を輕んじて機械を重んずる機械を以て人間を支配するものとし、人間が機械を改革することを不能ならしめて居る、即ち足を削つて靴に合せ人間を機械に從屬させる類であつて、社會革命及階級闘争の説を唱へ天下は大に亂るゝに至つた

吾人の新民主主義は人を以て本とし、機械は使用するものとした、人が機械を使用するのであつて機械が人を使用するのではない、機械の中人生に有益なるものは之を使用し人生に有害なる機械は之を捨て去るのである。大量生産と大量分配の結果は資本家を愈々富ましめ、一般人民を益々困窮せしめた何千何百萬の労働者は都會に集中し都會の文明は起つても農村の破壊が之を伴つて生じたのである、勞資問題は社會革命を招來し、諸方よりの人民雜居するとは都會の罪惡を形成した。農村の破壊は人間の貧血の如きものであり都會文明は人間の腦溢血の如きものである、故に吾人は都會と農村の畸形狀態を正しくするため工業の農村化を主張し大量生産、大量分配を主とせず生産の機械を農村に分散することを主とする。技術家に期待して資本家の利益を出發點とせずして資本家が利用すべき大量生産の工具を製作せしめ、且つ農民の利益を出發點として農民が利用すべき家庭生産の工具を製作せしめる。現今の輕工業の機械は當然農村に分散する方法を講ずべきである、そして公營の大電力工場に依て農村を電化する、農村間に電力があれば近代の生産工具を應用することが出来る。新民主主義の生産主義は近代生産工具を以て男は耕し女は織るの社會を實現し以て自給自足せしめやうと欲するのである、農村は新式の工具の生産に依て生活が改善され更に工業の農村化に因つて都會文明の弊害は除去せられ農村の善良なる風俗は維持せられるのであらう。

然るに近代工業中重工業の部分は家庭或は農村に於て生産すべき所のものではないから公營とせざるを得ない然し公營事業は往々官僚化の弊害に陥ることは上述せる通りである。此の公營事業が官僚化するの弊害を防止するためには必ず公營事業を處置する人をして眞に德行道藝あるの人としなければならぬ、資本主義下の重工業或は公營事業に於て之を處置する人は多く資本關係或は政治關係を有する者である。されば適材を用ひなければ事業は往々之が爲めに失敗するであろう故に吾人はあらゆる國營事業は一の生産のための官廳を特設し、其の政務員は又必ず人民の選舉を経て出すこと、すれば生産方面に於て特殊勢力を形成することを防ぎ得るであらう。

次に土地問題に付ては吾人は土地の分配に反對するものである、蓋し全国各地の地質の差異は分配に依つて均等にすることを得ないからである、例へば江南に於ては十畝を有する家が生計を立てられ、江北に於ては十頃を有する家が生計を立てられるとすれば必ず江南に移住して苦力となるであらう。故に土地が多くとも生産が不足するのであつて此のことは分配の欠點である、又江南の農民の如く十畝の土地を有し年中勤勞して漸く生計を維持し得るが若し其の勞力を勞働者と比較するときは勞働者は土地が無くとも其の所得は農民に比し遙に多い。

中國は農民が最も苦しいのであるから必ず農民の生活を高めなければならぬ、然し農民の生活を高めるため土地を多く與へると今度は勞力が不足するかも知れぬだから其の勞力を盡して耕し得べき土地があれば其の所得で僅に飢餓を免れることが出来る、故に農民の生活を高むるには必ず農民の生産能力を増加しなければならぬ、其の生産能力を増加せしむるには必ず生産の方法を改良すると同時に副業を興へて収入の増加を計つてやらねばならぬ。中國人の今日の生計問題は分配の均等ならざることにあるのでなくて生産の不足に在る、新民主主義の生産主義は土地問題の解決を主張するが分田の制を採用せずして地利の開發と生産の増加を主張するものである。

壬、平天下

土地問題の根本解決は王道天下主義を實行することに依り始めて成し遂げることが出来る。抑々天は私に覆ふて居るものでなく、地は私に載せて居るものではない、土地は天下人の土地である、然るに現在此の土地は我家の財産である、此の土地は我國の領土なりと謂ふ者がある。斯くて家と家との間に財産の争あり、國と國との間に領土の争が起るのである。富者は廣大なる土地或は多數の家屋を所有するも貧者は狹隘なる家に住んで居る。國家の間にも滿腹の國と空腹の國の別がある此の土地が平等でないことは現代に於て亂を招くの原因となり遂に一國の間には土地の分配問題を起し、國際間には資源分配の問題が発生するのである。然れども土地の分配は各人平等なるを得ず、又各國平等なるを得ざるものである。

大學に曰く「徳あれば此に人あり、人あれば此に土あり、土あれば此に財あり財あれば此に用あり」と。故に土地の所有は當然有徳者に屬すべきものなることを吾人は主張するのである。そしてこのことは個人に於て然り、又國家に於ても然りである。

能く土地の生産物を以て人民を養ふ者は即ち有徳とする有徳者は土地を領有し得るが、道樂息子は家の財産を蕩盡し敗北せる國の政府は領土を失ふのであつて此のことは優勝劣敗の天理である。今天下を平治せんとして天下の土地を天下の有徳者に返すことは王道天下の大義である。

抑々教ありて種類なければ四海同胞皆兄弟である、現在民族主義あり國家主義あり、尊大を專にして互に抗争して居るのは狹量も甚しい。新民主主義は文化の同じものは聯結同盟することを主張するのであつて例へば日本、中國、滿洲、の如きは一の聯盟とすべきであり、日支滿の聯盟より更に進んで大亞細亞の聯盟となし然る後に亞細亞を中心として萬邦協和し王道の天下が成立したならば即ち天下は平治するのである。

三、 結 論

新民主主義の理論と實行とは既に上述せる通りであるが之を綜合すれば新民主主義は新民史觀を基礎とし、人類歴史の進歩は循環する善惡の消長に關係あることを認め、善を擇んで固く執るの精神を本として王道を實行することである。

王道の實行には克己と復禮を以て本とするを要する、克己とは格物、致知、誠意、正心、修身の五項目であり、復禮とは齊家、親郷、治國、平天下の四項目である格物とは私を去るに在り、致知とは良知を致すに在り、誠意とは力行するに在り正心とは邪を無くすることに在り、修身とは人格を修養することに在つて此等は克己修養の工夫である。

復禮の道は第一に齊家である、齊家の道は人倫を正し男女の別を設くることに在る。

西洋思想である所の個人主義に反對し、孝悌を本とする所の家族主義を主張し特に祖先崇拜を重視し、祭政一致の道に達することに在る。第二に親郷即地方自治である、親に親しむの道を以て民を教化し良俗を作り、地方自治をして官治と警察の政治たらしめざることである。第三は治國であつて政教養の三者を合一することが重要である、故に禮治主義、徳治主義及生産主義を主張するのである。禮治主義は歐米資本主義の代議制度及一黨の専制に反對し家長を代表として各級

の官吏を選擧せしめるを以て民意の暢達を圖り且つ徳行道藝を以て官吏の被選擧資格となすことを主張するのである、徳治主義は己を治め人を治むるの道を主張し女子の參政に反對するものである、生産主義は機械を改良して理想とする人生に適合せしむることを主張し、機械を調和して社會を改造せんとする各種の學說に反對する。工業を農村化し機械文明を農村に分散せしめて其の窮乏を救ふと同時に都會文明の罪惡及勞資の紛糾を發生せしめざることを主張する。又重工業の公營を主張し且つ政務員は人民より選擧して官僚化するの弊害を防止するを主張する。土地問題に付ては無條件の分地制度を主張せずして産業を開發し土地を充分に利用し、生産を増加し、生活を改善せしむることを主張する。平天下の道は狹義の民族主義と國家主義に反對し日支滿の聯盟、進んでは大亞細亞の聯盟を作り、然る後に萬邦を協和せしめ王道天下の理想を實現することを主張する。中國は西洋思想の浸入を受けてから百年に近い、そして西洋の長は未だ吸收し盡さず、而も東洋固有の文化は却つて影を没して了つた。蔣介石が國權を盜取するに至つて東洋の文化は殆ど喪失し現に共產黨と結び東亞の赤化を顧みることなく抗日を事として居る。一人一黨の私のために人民の生命財産を犠牲に供して惜しまず誤れる焦土政策を主張して居る。幸にも我が友邦日本が義に依て兵を起したことは正に悪人を征伐し人民を救ふの擧である又東洋文化の復興を主張せることは正に四億民衆の渴望する所であつて、新民主主義はこの機運に應じて生じたので

ある。正義が發揚せらるれば邪説は自滅する光芒萬丈にして窃盜は隠れて了ふ。願はくば蔣政府の焦土政策の爲苦痛を嘗めつゝある同胞よ、新民主主義を信仰し、新民會の旗幟の下に集中し友邦日本と提携して共產黨を討伐し蔣介石を倒して中國を復興し東亞を復興せよ。

中華民國萬歲。

新民主主義萬歲。

新民會萬歲。

昭和十三年三月二十日
昭和十三年四月十四日
昭和十三年五月十五日
昭和十三年六月十五日

印刷發行
再版發行
三版發行
四版發行

昭和十三年七月十日 五版發行
昭和十三年八月十五日 六版印刷
昭和十三年八月廿日 六版發行
(定價一部金十錢)

新民主主義

不許
複製

編纂者

川田友之
東京市神田區西神田一ノ二同盟會館

印刷者

小宮山幸造
東京市牛込區早稻田鶴卷町三七一

印刷所

集美堂印刷所
東京市牛込區早稻田鶴卷町三七一

東京市神田區西神田一ノ二同盟會館

發行所

大觀社

電話神田一一六六三番
振替東京八〇二七八番

終

